

京都市立養正小学校学校ニュース 学校評価 平成26年3月14日

校長 中島 正裕

TEL791-7184 FAX791-7185

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yousei-s/> E-mail:yousei-s@edu.city.kyoto.jp

学校教育目標

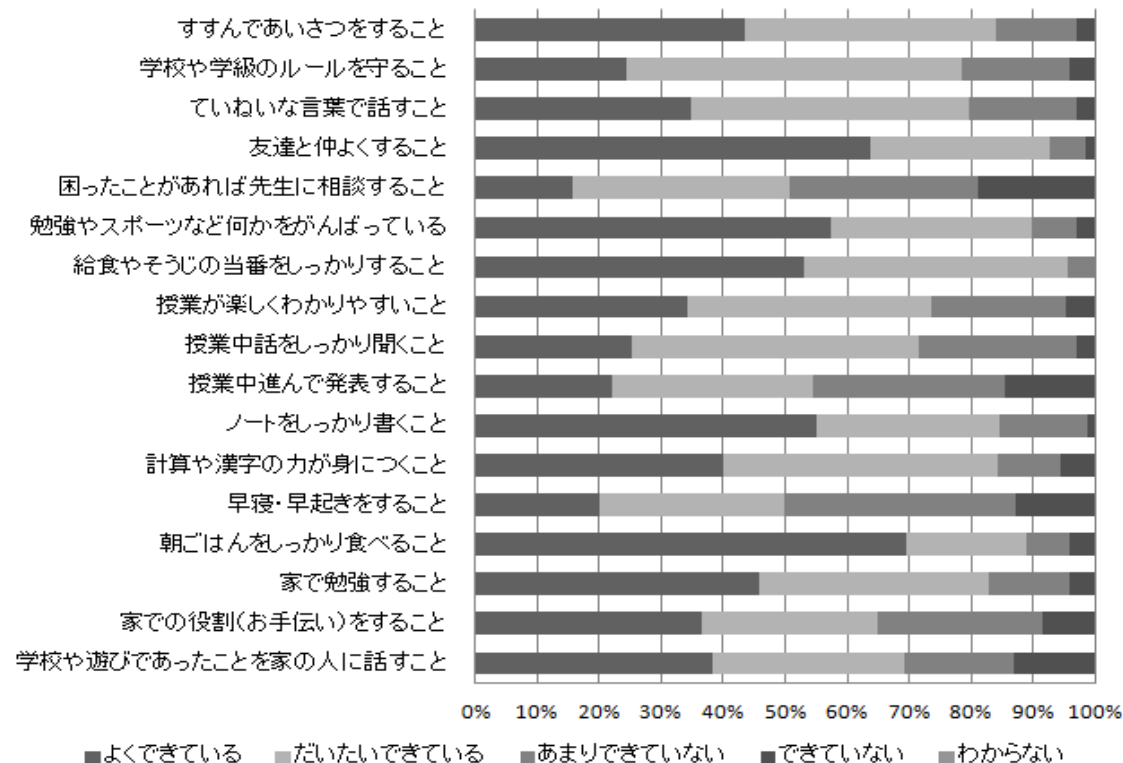
「一人一人の子どものもつ良さを最大限に伸ばす養正教育の推進」

学校評価の結果について

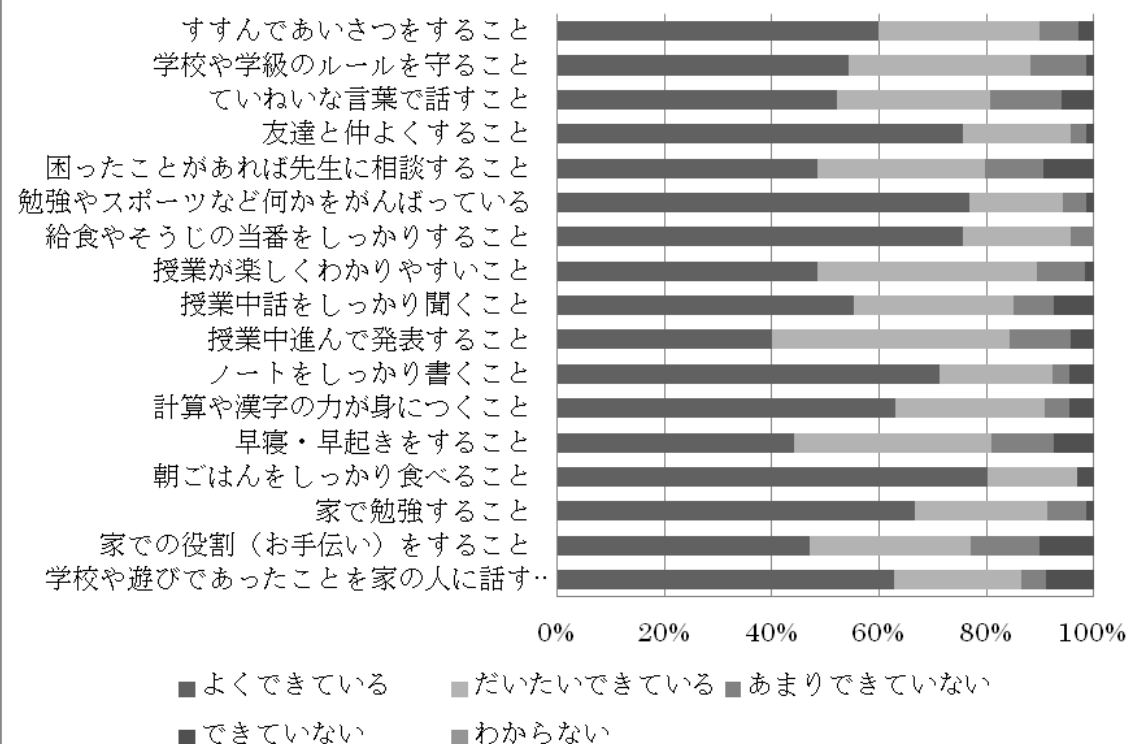
1月に、全校児童（低学年〈1, 2, 3年〉, 高学年〈4, 5, 6年〉に分類）、保護者の方に学校の評価のアンケートをしていただきました。保護者の方については、約140人から回答をいただきました。その結果を、学校運営協議会で話し合い、考察としてまとめたのでお知らせします。

考察につきましては、この学校ニュースやホームページに示しました。後期のアンケート結果をみていただき、ご意見がございましたら学校にお知らせください。記述欄のご意見については、紙面の都合上、ホームページ上での公開とさせていただきますが、いただいたご意見は教職員で確認し、今後の指導に生かしていきたいと考えています。アンケートへのご協力ありがとうございました。

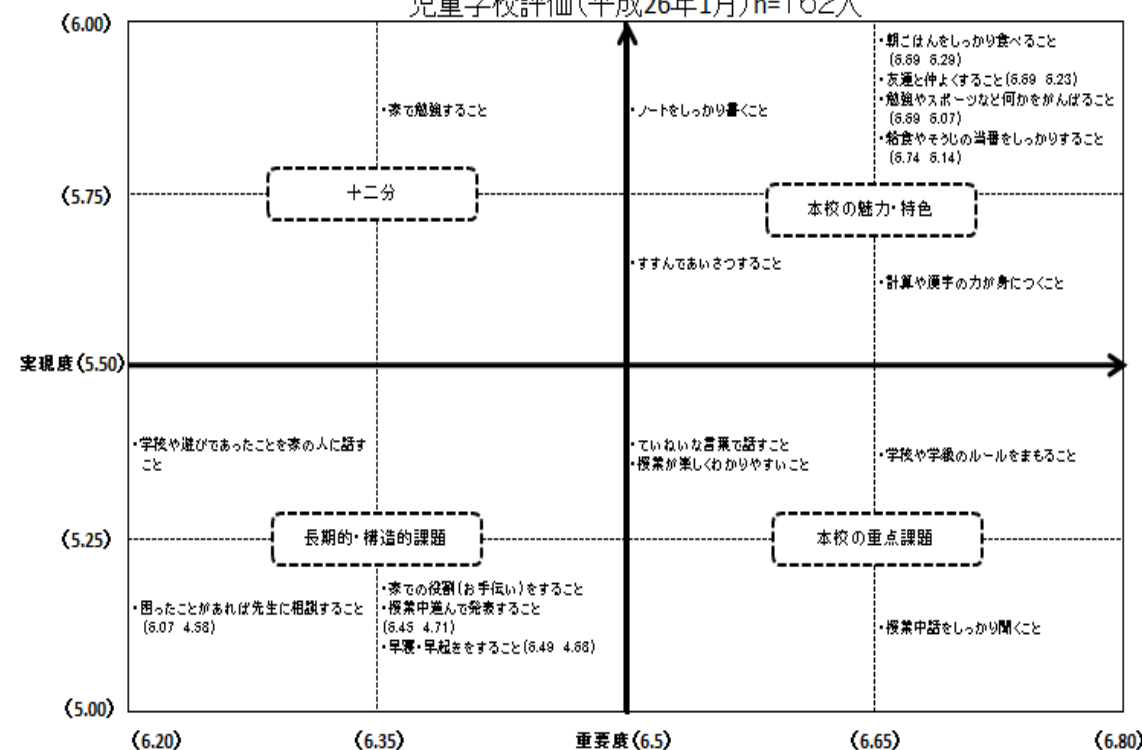
H25後期高学年実現度

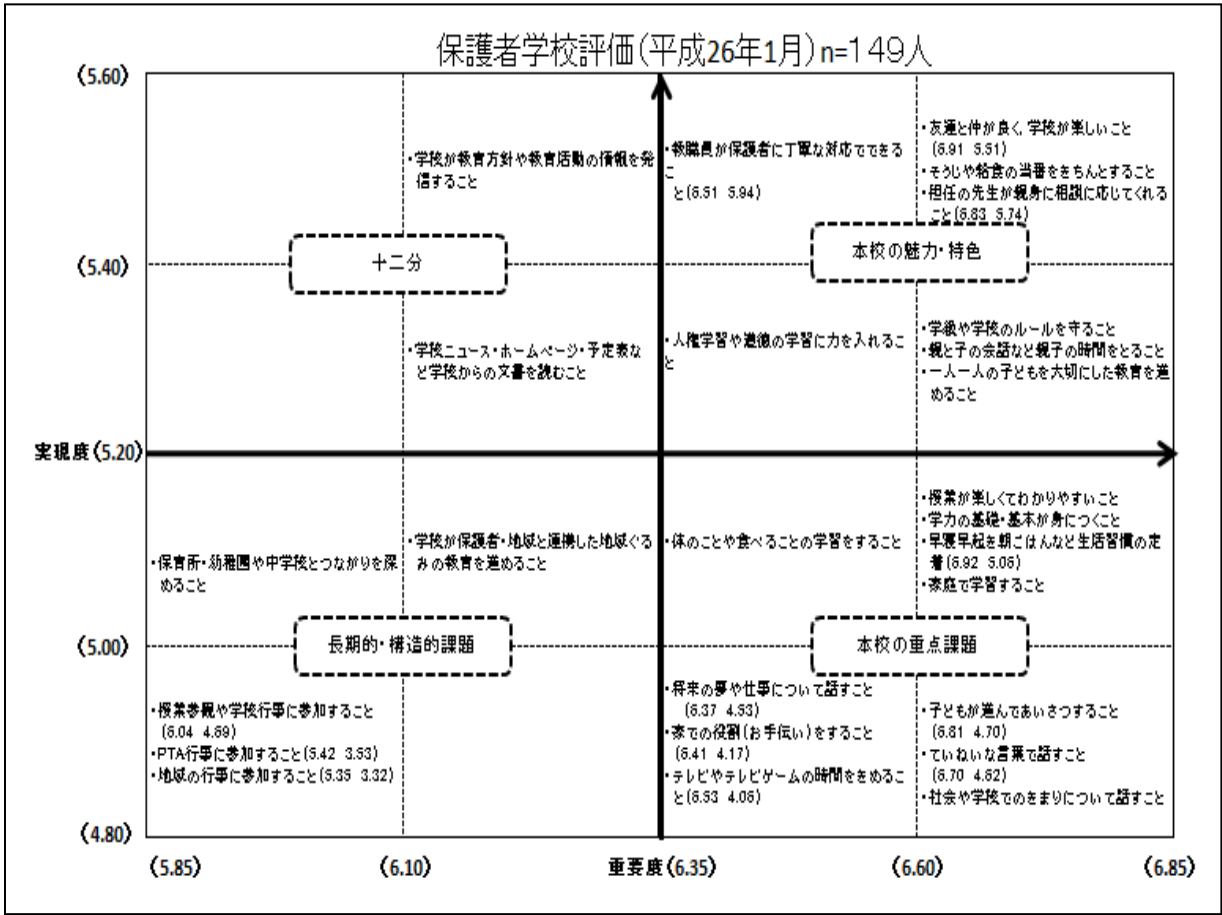


H25後期低学年実現度



児童学校評価(平成26年1月)n=162人





考 察 (アンケート結果と学校運営協議会理事会での話し合いより)

保護者の学校評価の項目の実現度が低く、重要度の高い項目(重点課題)が大幅に増えている(6項目⇒11項目)。新たに重点課題となった項目は、「授業が楽しくてわかりやすいこと」「体のことや食べることの学習をすること」「将来の夢や仕事について話すこと」「家での役割(お手伝い)をすること」「テレビやテレビゲームの時間を決めること」「早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣の定着」である。良い方向に変化した項目は「親と子の会話など親子の時間をとること」の1項目。前期と同じく重点課題だった項目は、「ていねいな言葉で話すこと」「子どもが進んであいさつすること」「学力の基礎・基本が身につくこと」「家庭で学習すること」,「社会や学校でのきまりについて話すこと」の5項目である。

このうち「将来の夢や仕事について話すこと」「家での役割(お手伝い)をすること」「テレビやテレビゲームの時間を決めること」については、重要度が増した項目なので、保護者の意識として「必要だ」と意識が高まった結果とみることができるので実現度も今後改善してくるのではないかと期待できる。

実現度の下がった項目が3項目「授業が楽しくてわかりやすい」「体のことや食べることの学習をすること」「早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣の定着」。これに変化しなかった項目も含めて注視していく必要がある。分析的にみると、授業や学力について【授業・学力】、生活習慣とその教育について【生活習慣】、言葉づかいやあいさつなどの規範意識について【規範意識】が重要だが実現できていないとの評価がなされていると見ることができる。

この3点について子どもの評価を見てみると1点目の【授業・学力】については、「授業中話をしっかり聞くこと」「授業が楽しくてわかりやすいこと」「授業中進んで発表すること」の実現度が下がっている。【生活習慣】については「早寝早起きについては」実現度が低いままだが「朝ごはんをしっかりと食べること」については実現度が高い状態を保っているので、「早寝・早起き」ができていないことが、保護者の評価を下げたことがうかがえる。【規範意識】についても「学校や学級のルールをまもること」は前期の時と同様実現度が低い。また、前期実現度が高かった「ていねいな言葉で話す」も実現度が下がった状態にある。

後期のアンケートの項目ごとの【授業・学力】の実現度を見てみても、「授業中話をしっかり聞くこと」「授業中進んで発表すること」「授業が楽しくわかりやすいこと」の実現度が低いことが気になる。「授業中話をしっかり聞くこと」については、授業中に「話を聞きなさい」と言われているので、意識が高くなり、「まだこれではダメだ。」と子どもが感じているのではないかと考えることができる。しかし、「授業が楽しくわかりやすいこと」は明らかに授業に対する評価であり、「授業中進んで発表する」は重要度も下がっていて、やはり、子どもが自分の意見を自由に話せる活気のある授業づくりが十分ではないと考えて、授業の改善が必要だと評価しなければならない。

【生活習慣】の児童の実現度を見ると「朝ごはんをしっかりと食べること」以外の、「早寝・早起きをすること」「家での役割(お手伝い)をすること」「すすんであいさつをすること」は十分できている状態にはない。保護者の実現度でも、「子どもが進んであいさつをすること」「家での役割(お手伝い)をすること」「テレビやテレビゲームの時間をきめること」「早寝早起き…生活習慣の定着」が十分でないと評価している。「何度言っても子どもが言うことを聞かない。」との思いが強いのか、もっとこうなってほしいとの願望が強いのか。家でのジレンマがうかがえる結果といえる。

【学校運営協議会理事会での話し合いより】

実現度が下がっている項目が多いようだが、言葉づかいは良くなっている児童が多くみられる。学校としても言葉づかいについては、折に触れて指導をしているので少しずつ敬語など丁寧な言葉を使わなければならないと思うようになってきている。このように子どもたちの意識が上がっていることは今後の成長を期待できるので救われる。しつけに関わることは家庭の働きによることが大きいので、家庭の働きかけを学ぶ機会である地域やPTAとの関わりを重要と感じていないことが気になる。保護者同士の関わりや地域との関わりの中で保護者の意識も高まっていかなければならない。そのように考えればPTAや地域の活動への参加やボランティアの募集などは集まりが多くなくても根気よく働きかけていくことは大切である。

また、「困ったことがあれば先生に相談すること」「授業が楽しくてわかりやすいこと」については子どもの同志の関係や発達段階によるところもあるが、いじめられたり勉強がわからなかったりして困っている児童がいなかしっかりアンテナをはって一人一人を大切にせる教育をさらに進めてほしい。